

# 集落支援員だより

## 第26号

発行者 東和地域集落支援員  
連絡先 66-2490  
発行日 令和4年6月23日(木)



### 体力の増進と 心身の健康

私はグラウンドゴルフ会長になり2年目を迎えております。他の区と異なる点は、太田老人クラブの部会として活動している事です。



太田老人クラブ  
グラウンドゴルフ部会会長  
加藤謙二さん

現在は、部会員54名が3月末から10月末まで毎週土曜日の午後旧下太田小学校跡地グラウンドで練習し、12月から翌年3月までは、太田住民センター大ホールにて、さわやかスポーツの佐々木さんにお世話になり、昨年より脳トレやミニコースポーツを取り入れ、年間を通じた活動とし、体力の増進と心身の健康維持向上に努めています。

### 関係団体に積極的参加

春・夏・秋の地元の大会は元より、東和地区二本松大会の参加や、県北

県の大会に代表者を送り、競技技術の向上を図っております。

### 会の動向

グラウンドゴルフ部会では、当老人クラブへの入会を歓迎しております。老人クラブに入るのほらよと抵抗のある方は、是非ともグラウンドゴルフから始め、会員との交流、そして老人クラブ活動の良さや魅力を知っていただいたのちに、入会していただくワンステップ的な居場所としたいと考えております。

令和4年度はグラウンドゴルフ会員7名が老人クラブに入会されました。本当にありがたく会員の方々に感謝しています。

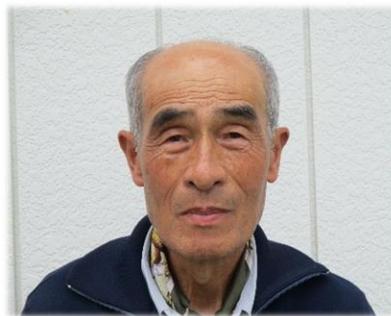
### もっと楽しんでいただくために

練習の中には、毎月一回の隠しイベントの開催当日発表や地元の太田大会には個人競技の他に、各組上位者による決勝大会や思考を凝らした団体競技を行い、団体でしか味わえない特有の緊張感が必要と考えております。最近団体戦の方が人気上昇中です。

若い年代層にも入会していただき、私達に足りないものを補い、もっともっと楽しくしたいです。さて今年のMVPは誰の手に！

### 農業人と食卓

大槻重征さんの家でいま農業に携わっているのは、奥さんのたき子さん、長男の昌広さんとその奥さんの純子さんの4名で、それぞれの繁忙期には重征さんの妹さんにも手伝ってもらっているようです。



針道五反田  
大槻重征さん

もともと花(アスター)の栽培を行っていましたが、20年前に夏秋第40アールの栽培に切り替えました。8年間の農業研修期間を終えて長男の昌広さんが帰郷したと同時に平成18年に、夏秋菊栽培を15アールに減らし、新たにキュウリ40アールの栽培を始めたそうです。

特に農業は、天候、それに肥料の調合が最も大切で、肥料の調合を間違えるとえらい目に合う事は、身を

もって体験しており、やり直しのきかないのが農業であります。

### 安定した食糧供給

大方の農家では、食に関しては何の不自由もなく暮らしていると思いますが、都会では3食まともに食べ物にありつけない人もいます。子ども食堂などはその例です。

我々農家は人々に安定した食糧を提供するのも役目ではないでしょうか。またこれからの農業は、自然の恵みで生きていく事が真の姿ではないかと思っています。

改めて大槻さんに今後の目標を聞きますと、「長いこと農業に携わってきて、体力的にも衰えを感じる今日です。まずは、健康維持が第一であり、持続可能な食材づくり、そして身近にある食材づくりをしていきたい」と語っていました。



# 隠れ文化財「新城」

新城は、現在の太田鷹一区にあります。木戸口は、太田寺坂区集落から登る道と五福田、上寺からの道もありますが、現在は全ての道で藪化が進み、城への登頂は難しい状態にあるようです。

新城はそれ程大規模な城ではないが、城壁はそここの面積(約30メートル×100メートル)は確保されており、城郭は段差があり、ある程度の人数が籠城する事ができる城となっていたようです。

城郭を中心に防御構造もしっかりしており、城の北西側は急勾配な地形で、そついつ意味では、敵からの侵入を防ぐためには守りやすい城であったように思われます。

太田寺坂からの城への道のりは、門跡から約700メートル程あり、途中土塁等もつうすらと現存し、城の東南側丘陵地には「丘堀」等も確認されています。

また、「新城」は樵山館(木幡)、築山館(戸沢)、花館(太田)等の小手森城の支城であり、「新城」という城名が残っているくらいだから城主は土豪ではなく、他の地より家来を連れ移り住み、築き上げた城と思われます。

当時の城主は「寺坂山城守」であり、天正13年8月27日(約400年前)に小手森

城が落城し、人々が撫で切りにされると『去れば新城と樵山とは敵地なりしが、小手森の鉾に驚き、其の夜両城共に自焼してぞ引き除ぎける』とあり、新城は小手森城の落城の知らせを聞いて城に火を放ち、城主共々全員がばらばらに散っていった悲運の城と語り継がれています。



新城があった場所は  
藪で覆われてしまっている

そして寺坂区には、寺坂、向寺坂、大寺坂等の地名も現存しており、小手森城の無念さ、そして弔いのため、慈悲深き「寺坂山城守」によりこの地に寺が建てられたといわれています。

また、東和には中世の城跡が数か所あり、多くの城跡などは、人知れず里山に存在し、地域の歴史文化が忘れ去られていく様な状況にあるのではないのでしょうか。

## さわやかな風コーナー

### 子どもの成長を願って♡

地域に根差した

地域性を活かした教育を

子どもさんが小学校に入るのを機に東和にUターン。東和は友達がいるから楽しいと話す佐久間さん。事務職から看護師の仕事に興味を持ち、資格を取って活躍している佐久間さんを紹介しました。

東和地域の子どもさんの成長を何より願う佐久間さんからお話を伺いました。



太田地区 佐久間彩さん

私は、小さい時から、地域の方々にいろいろな事を学び育ってきました。家での手伝いはもちろん、学校でも田んぼを借りて、父兄のアドバイスを受けながら

みんなで田植えや稲刈りをしました。父兄が耕した学校の畑でじゃがいもを作り、理科のテンプレンの実験をしたり、調理実習で粉ふきいもを作ったりしました。お正月近くになると、おじいさん講師でしめ縄作りもしたりし、社会の時間には白髭の塩の道について学習もしました。

私は、地域に根差した地域性を活かした教育が、子どもが育ち学び成長する上で必要であると思いい、PTA活動や市民活動に参加しています。少しでも地域と子どもの橋渡しができればと考えています。

また、今、老人保健施設で働いている経験を活かし、今後、東和のおじいさんおばあさんの力になりたいと考えています。

- 「集落支援員だより」は、東和地域の情報や地域活動等をお届けしています。
- どんな小さな活動でも取材に伺いますので、載せたい情報がありましたら、集落支援員までご連絡ください。
- 東和支所地域振興課(集落支援員)
- 問い合わせ先: 66-2490(直通)